

秋田県の地すべり分布特性について

秋田工専 (正) 〇伊藤 驍
秋田県土木部砂防課 小松 恭雄
" 菊 地 京 二

1 調査経過

秋田県の地すべりについては、これまで県土木部で編纂した地すべり防止事業の推移に因する「秋田県の砂防」がみられ、1966年以来1978年までの集を重ねている。その間幾多の事業も随時報告されて、砂防 地すべり防止対策、急傾斜地崩壊事業等、治山治水の根幹として砂防事業の認識を高めてきた。これらの報告書から秋田県内の地すべりの生々しい実態を感知することができ、事業の経過が中心であるため、一、二の個性をもつ地すべり特性を総括的に整理していく必要が感じられていた。既にこれまで秋田県で170ヶ所の地すべり地帯が調査されているが、近年の地盤災害の急増をみるにつけ、ハントブックその他文献の旧態然とした内容を速やかに書きかえる時期にあった。筆者らは、秋田県の地すべりを種々角度から検討すべく、今回は実態がどのような状態にあるのかを把握し、解析することがその手はじめになると思われ、ひとまず分布や地質構造の特性、簡単な実態統計の分類に重点を置いて整理することを試みた。

2 集計結果

地すべりはその所管が建設 農林両省にまたがる。昭和52年度までに集計された調査内容は十数項目に分かれるが、そのうち構成地質や地すべり規模、土質工学的諸問題について若干ふれる。

まず秋田県内の地すべり集中区域を挙げると概ね次のようである。

- ① 鳥海山麓由利高原(子吉川水系)
- ② 阿仁川水系と大野台周辺
- ③ 男鹿半島
- ④ 県境温泉風化土地帯

これらは地質構造、発生病態等に各々特徴はあるが、又共通点もある。発生病態を年を追って調べてみると、図-1のようである。地すべり発生は近年急増しているがこれは開発と並行性を示すものと考えられ、砂防事業の重要性が増加していることを裏付ける。このような地すべりの分布する地質をみると図-2のようになる。主とする地盤は、第三紀層グリーンタフ、次いで泥岩、頁岩

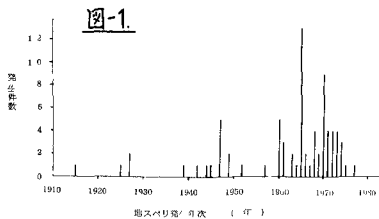


図-2

